

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 28 年(2016 年)第 27 週 (7 月 4 日~7 月 10 日)

発行年月日:平成 28 年(2016 年)7 月 14 日
 発行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報係
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:eh4505@pref.shiga.lg.jp

- 1) 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎および A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 2) ヘルパンギーナは、全県で警報発令
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
 - ・ 大津市、東近江、長浜および高島保健所管内では警報開始基準値を超過
- 3) 感染性胃腸炎は、全県で減少するも、大津市、彦根および高島保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
 - ・ 大津市、東近江および彦根保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
- 4) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で減少するも、甲賀、東近江および長浜保健所管内で増加
 - ・ 東近江および高島保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
- 5) 流行性耳下腺炎は、全県で過去 5 年の同時期と比較して高い値
- 6) 腸管出血性大腸菌感染症は第 25 週(6/20-26)から継続して報告され、第 28 週には 3 例が報告されたため、平成 28 年 7 月 13 日~24 日を対象として、県内全域に腸管出血性大腸菌感染症多発警報を発令

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一~四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 27 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 2例	肺結核(80歳代男性)、無症状病原体保有者(60歳代女性)
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2例	O157VT1VT2(20歳代男性、10歳代女性)
	四類感染症	報告なし	
	五類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症 1例 梅毒 1例	70歳代男性、ワクチン接種歴なし 早期顕性梅毒Ⅱ期(20歳代女性)
第 26 週以前の診断例(*)		報告なし	

(*)平成27年 第 1 週以降に診断され平成28年第 27 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 28 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(27週)							平成28年累計		平成27年累計※	
		26週	27週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	6	2	1	0	0	0	1	0	0	124	12,124	221	23,880
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67	1	156
	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	0	1	0	1	0	0	0	7	922	43	3,561
四類	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	227	2	212
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	178	4	242
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	60
	つつが虫病	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	81	0	419
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	163	1	292
	レジオネラ症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	14	657	29	1,587
	五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	609	8
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	129	2	251
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	706	13	1,654
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	466	3	497
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89	3	185
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	277	16	431
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	730	10	1,413
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	31	0	80
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	179	3	247
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1	1	0	0	0	0	0	0	22	1,611	34	2,355
	水痘(入院例)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	166	2	307
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	2	12
	梅毒	0	1	1	0	0	0	0	0	0	11	2,110	14	2,660
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	65	2	117
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	62	3	120
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83	4	162
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	35

※ : 平成28年1月現在の暫定数

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

警報発令 ; ヘルパンギーナ 滋賀県全域
 警報発生 ; ヘルパンギーナ(開始基準値;6、終息基準値;2)

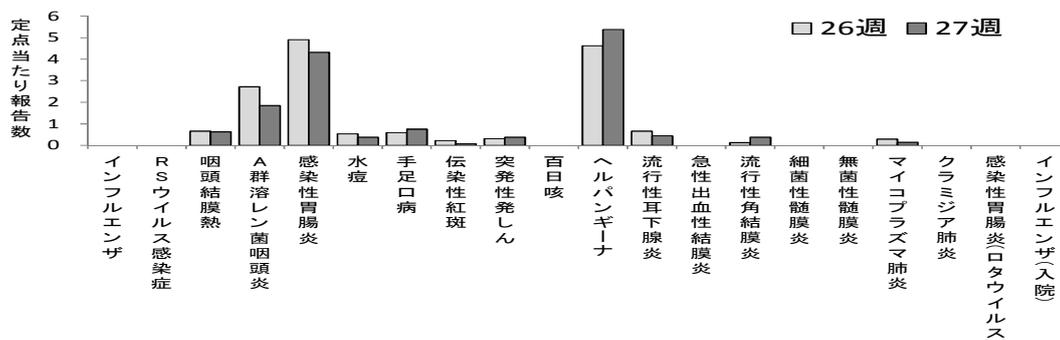
大津市、東近江、長浜、高島の各保健所管内

注意報発令および発生 ; なし

定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県内全域に警報発令されます。

- 1) 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎およびA群溶血性レンサ球菌咽頭炎です。
- 2) ヘルパンギーナは、全県で警報が発令されました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - ・ 大津市、東近江、長浜および高島保健所管内では警報開始基準値を超過しています。
 - ・ 1歳(30%)で最も多く、0-4歳で全体の84%が報告されています。
- 3) 感染性胃腸炎は、全県で減少するも、大津市、彦根および高島保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - ・ 大津市、東近江および彦根保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
- 4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で減少するも、甲賀、東近江および長浜保健所管内で増加しました。
 - ・ 東近江および高島保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
 - ・ 2歳(20%)、3歳(14%)および7歳(14%)に多く、0-7歳で全体の83%が報告されています。
- 5) 流行性耳下腺炎は、全県で過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

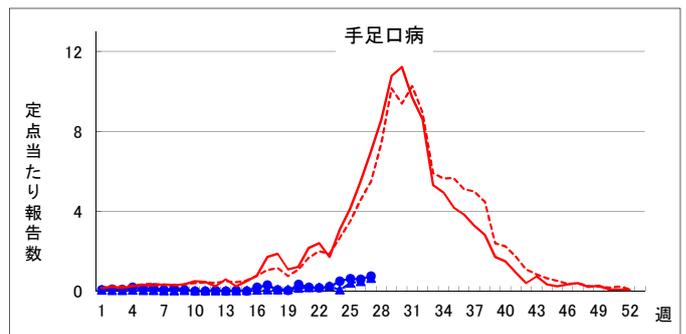
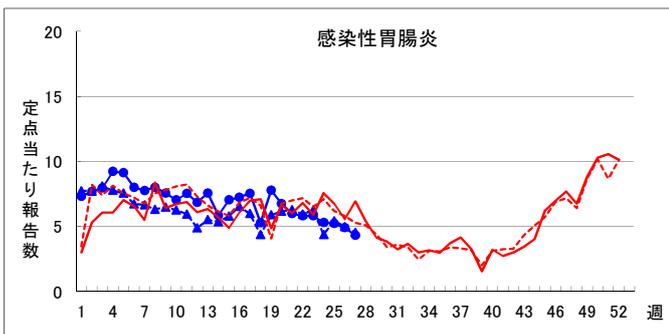
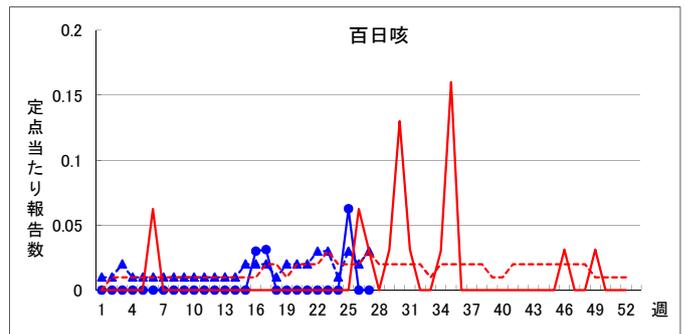
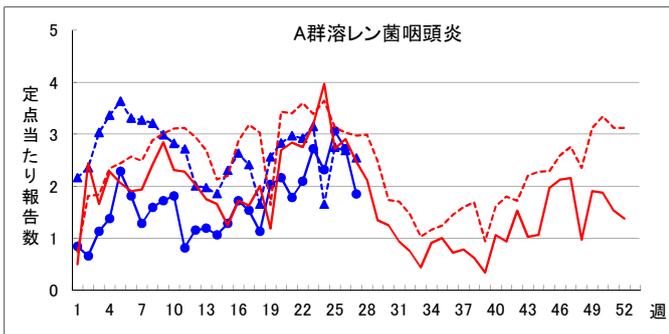
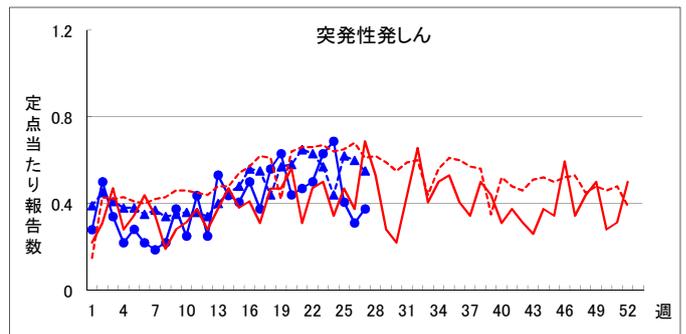
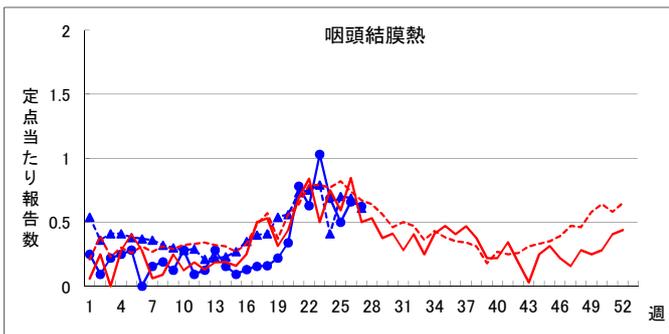
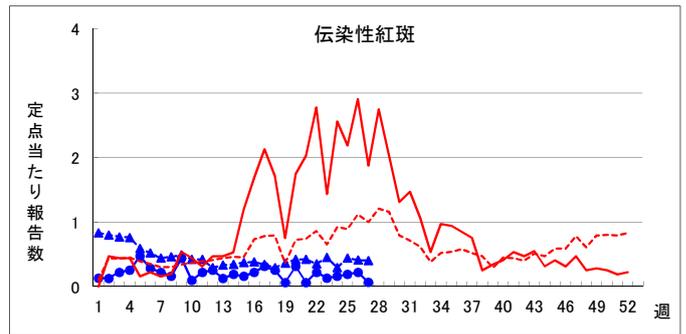
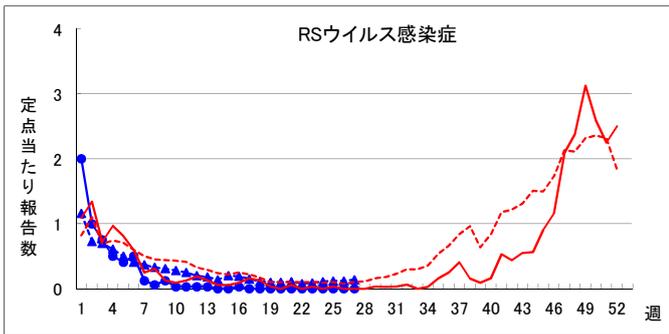
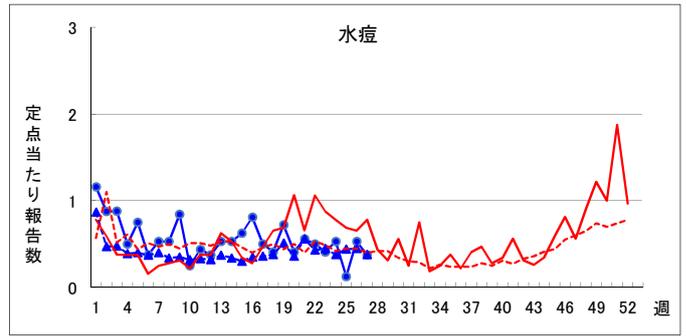
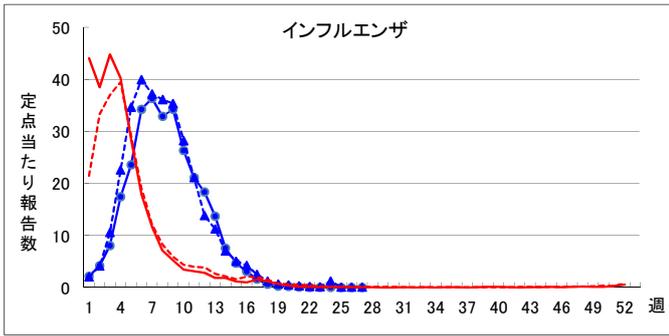
週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(27週)						
		26週	27週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.66	0.63	0.43	1.50	0.75	0.60	0.25	0	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.72	1.84	1.00	1.50	1.50	3.60	0	1.25	7.00
	感染性胃腸炎	4.91	4.31	6.71	1.00	1.75	4.80	7.75	3.75	4.00
	水痘	0.53	0.38	0.14	0	0	1.00	0.75	0.50	0.50
	手足口病	0.59	0.75	1.57	0.50	0	0.80	0.25	0.50	1.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.22	0.06	0	0	0	0	0	0.50	0
	突発性発しん	0.31	0.38	0.57	0	0	0.40	0.25	0.50	1.50
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	4.63	5.38	7.14	1.67	2.75	7.60	0	8.75	14.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.66	0.44	1.29	0	0	0	0.75	0.50	0	
眼科 (8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0.13	0.38	0	0	3.00	0	0	0	0
基幹 (7)	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.29	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院に限る)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

赤字 : 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
 紫字 : 注意報レベルの基準値を超過

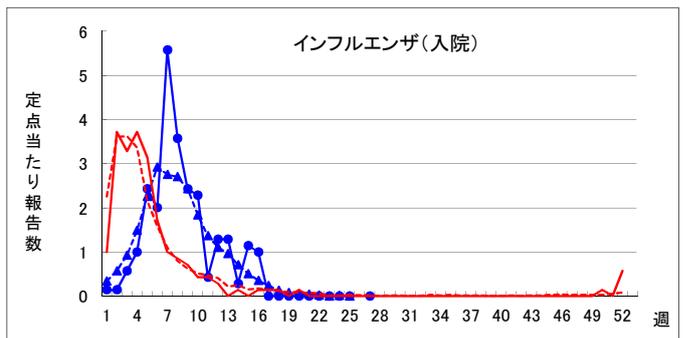
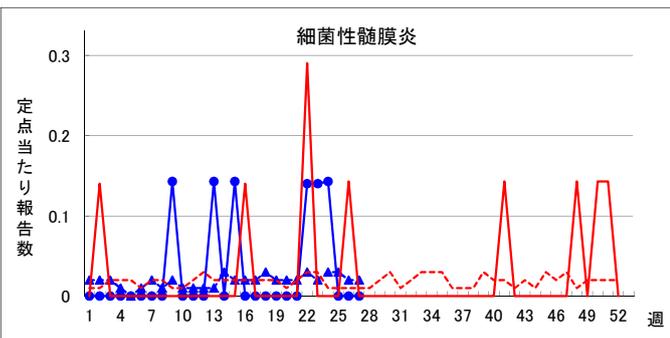
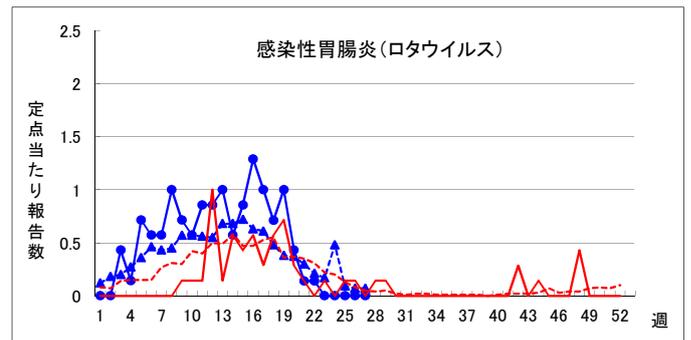
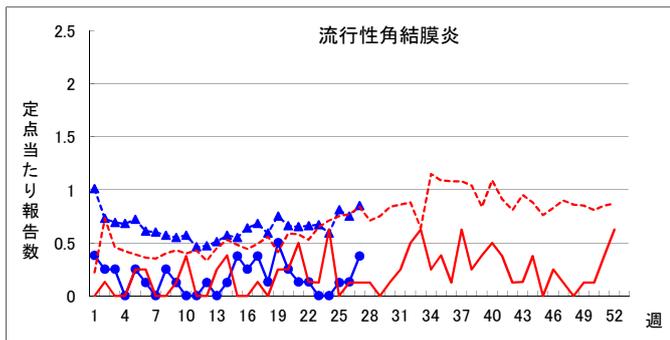
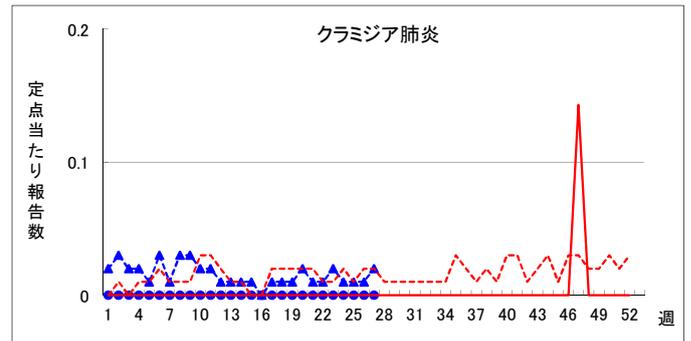
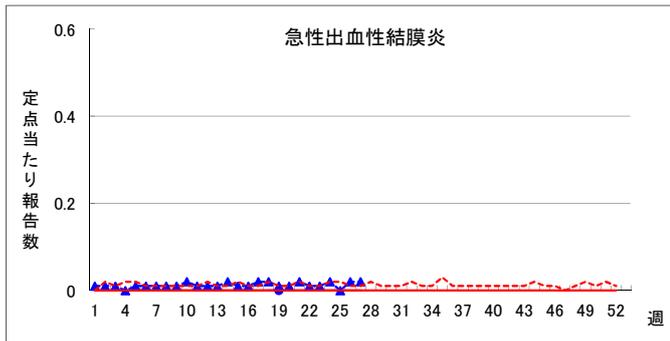
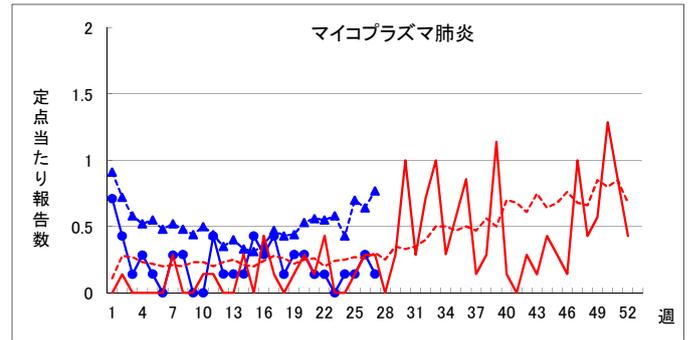
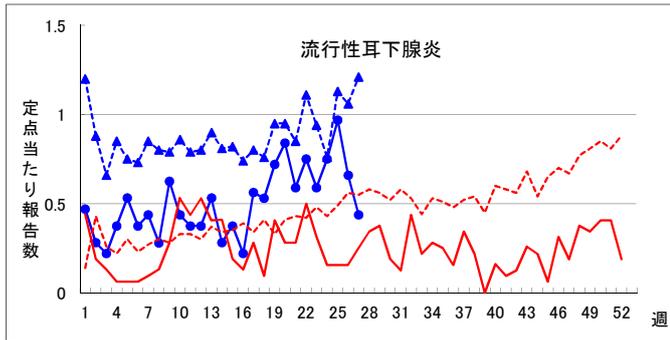
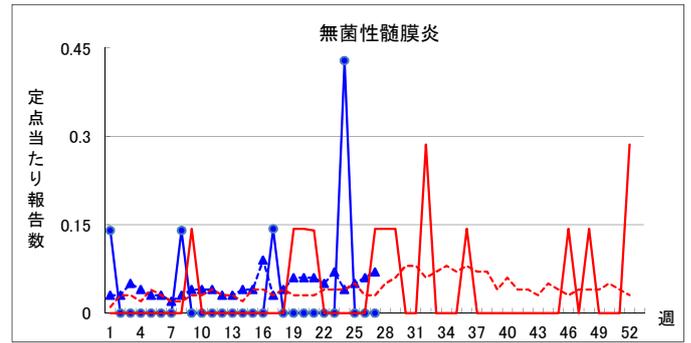
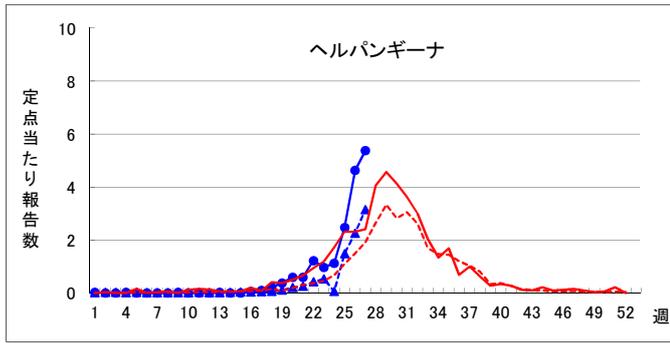
5-1. 疾病別定点当たり報告数 平成28年第27週

- - - 平成27年全国 平成27年滋賀県
 -▲- 平成28年全国 ● 平成28年滋賀県



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成28年第27週

- - - 平成27年全国 平成27年滋賀県
 -▲- 平成28年全国 平成28年滋賀県



警報発令 ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する夏かぜと呼ばれる代表的な疾患です。

平成28年第27週（7月4～10日）の発生状況により、滋賀県全域に警報が発令されました。報告数は例年7～8月頃に最も増加するので、今後も発生動向に注意してください。

対策方法

1. 患者との密接な接触を避ける。
2. 流行時はうがいや手洗いを強化する。
3. 糞便へのウイルス排出は発症から数週間持続するので、オムツ交換後等の患者の便に触れる可能性がある場合は手洗いが重要です。

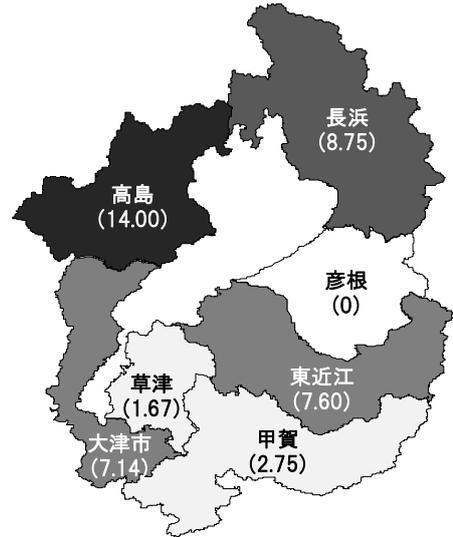


図1. ヘルパンギーナの保健所別定点当たり報告数
平成28年第27週、滋賀県

多発警報発令 腸管出血性大腸菌感染症

第25週（6/20-26）から継続して報告され、第28週には3例報告されたため、県内全域に腸管出血性大腸菌感染症多発警報（平成28年7月13日～24日）が発令されました。

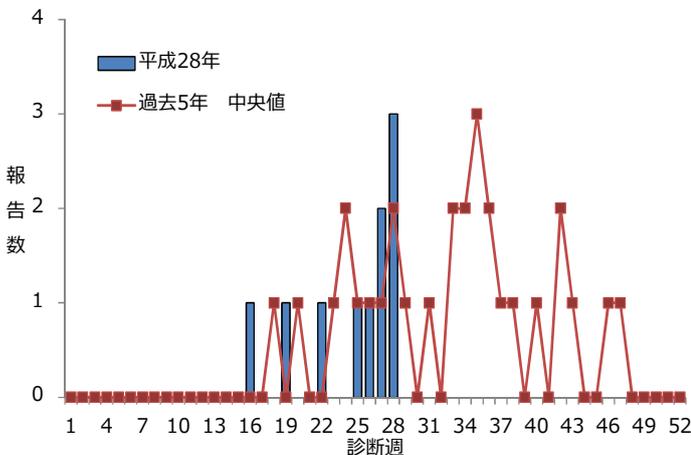


図2. 腸管出血性大腸菌感染症の発生動向
過去5年および平成28年第1～28週、滋賀県

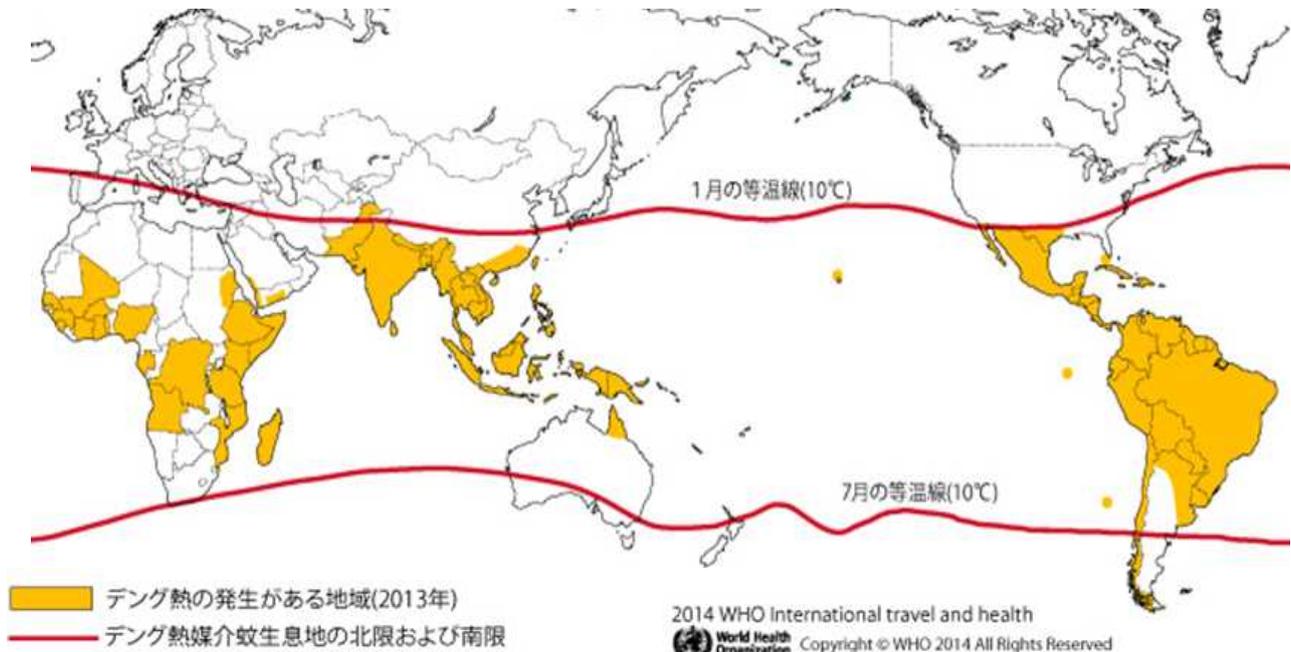
対策方法

1. 対策には手洗いが重要です。
2. 適切な食品保存、清潔な調理器具の利用十分な加熱等の食中毒対策が大切です。
3. 若齢者、高齢者等は重症化することがあるので、激しい腹痛、血便などの症状があれば医療機関の受診が勧められます。

注目すべき感染症 デング熱



デング熱は、熱帯や亜熱帯で患者が多い感染症です。日本人が多く渡航する東南アジア、南アジアへの旅行者を中心として、例年8月～9月に症例の報告が増加します。



デング熱の流行地域（厚生労働省検疫所HPより）

どんな病気？

- 感染経路 デング熱の患者を吸血した蚊が他者を吸血することにより感染
- 潜伏期間 2～15日（通常3～7日）
- 症状 38～40℃の発熱、激しい頭痛、目の痛み、関節痛、筋肉痛、発疹がみられるが1週間程度で回復
ときに、異なる種類のデングウイルスに感染すると重症型のデング出血熱やデングショック症候群を発症

対策方法

1. 蚊対策
(1)蚊が多く存在する場所に行く際は、長袖、長ズボンの着用、または蚊の忌避剤などを利用が推奨されます。
(2)特に渡航時は行き先の流行状況に応じて蚊対策を強化してください。
(3)蚊に刺されてから3～7日程度で症状が見られたときは、最寄りの保健所へ相談、もしくは医療機関の受診が勧められます。
2. ワクチン、予防薬や治療薬はない。